尼崎市下水道事業のあゆみ

尼崎市の下水道

- 1953 ■下水道事業着手
- 1958 ■下水道法公布
- 1959 ■公共下水道供用開始
- 1970 ■下水道法一部改正（水質等の公害関連の充実）
- 1971 ■市内ピーク人口約 55.4 万人

1950 1960 1970 1980

単独公共下水道

1962

■東部処理場
簡易処理開始

1963

■西川中継ポンプ場運転開始

1966

■中在家中継ポンプ場運転開始

1967

■東部処理場高級処理開始

1982

■北部浄化センター
運転開始

■東部第１浄化センター
運転開始
東部処理場を東部第２
浄化センターに名称変更

流域関連公共下水道

1965

■尾浜中継ポンプ場
運転開始

1966

■大庄中継ポンプ場
運転開始

1976

■武庫川下流処理場
（現武庫川下流浄化センター）
運転開始
■大庄中継ポンプ場より
汚水圧送開始

1978

■栗山中継ポンプ場
運転開始

改築更新事業を本格的な制度化前に着手

- 地方公営企業法の一部適用（財務）
1989

- 施設改築・整備計画策定
1994

- 改築事業計画策定（管きょ）
2007

- 長寿命化計画策定（管きょ）
2009

- 中期ビジョン策定
2012

- 長寿命化計画策定（施設）
- 業務継続計画（BCP）策定
- 雨水整備水準を6→10年確率へ
2013

- 総合地震対策計画策定（マンホールトイレ）
2017

- ストックマネジメント計画策定
- 地方公営企業法の全部適用
2018

1990　2000　2010　2020

尼崎市下水道普及率

人口普及率
99.9%

1988

- 高田中継ポンプ場運転開始

1984
- （流域）南武中継ポンプ場運転開始
- 栗山から南武中継ポンプ場へ汚水圧送開始

1989

- 富松中継ポンプ場運転開始

1993

- 東難波雨水ポンプ場運転開始

- 兵庫東下水汚泥広域処理場運転開始

2000
- 東部浄化センターから兵庫東（※）へ汚泥圧送開始

2001
- 東部第２浄化センターの水処理施設を東部浄化センター（旧第1）へ統合しポンプ場に機能変更

2003
- 東部浄化センター包括委託開始

2005
- 北部浄化センターから兵庫東（※）へ汚泥圧送開始

2011
- 大庄中継ポンプ場包括委託開始

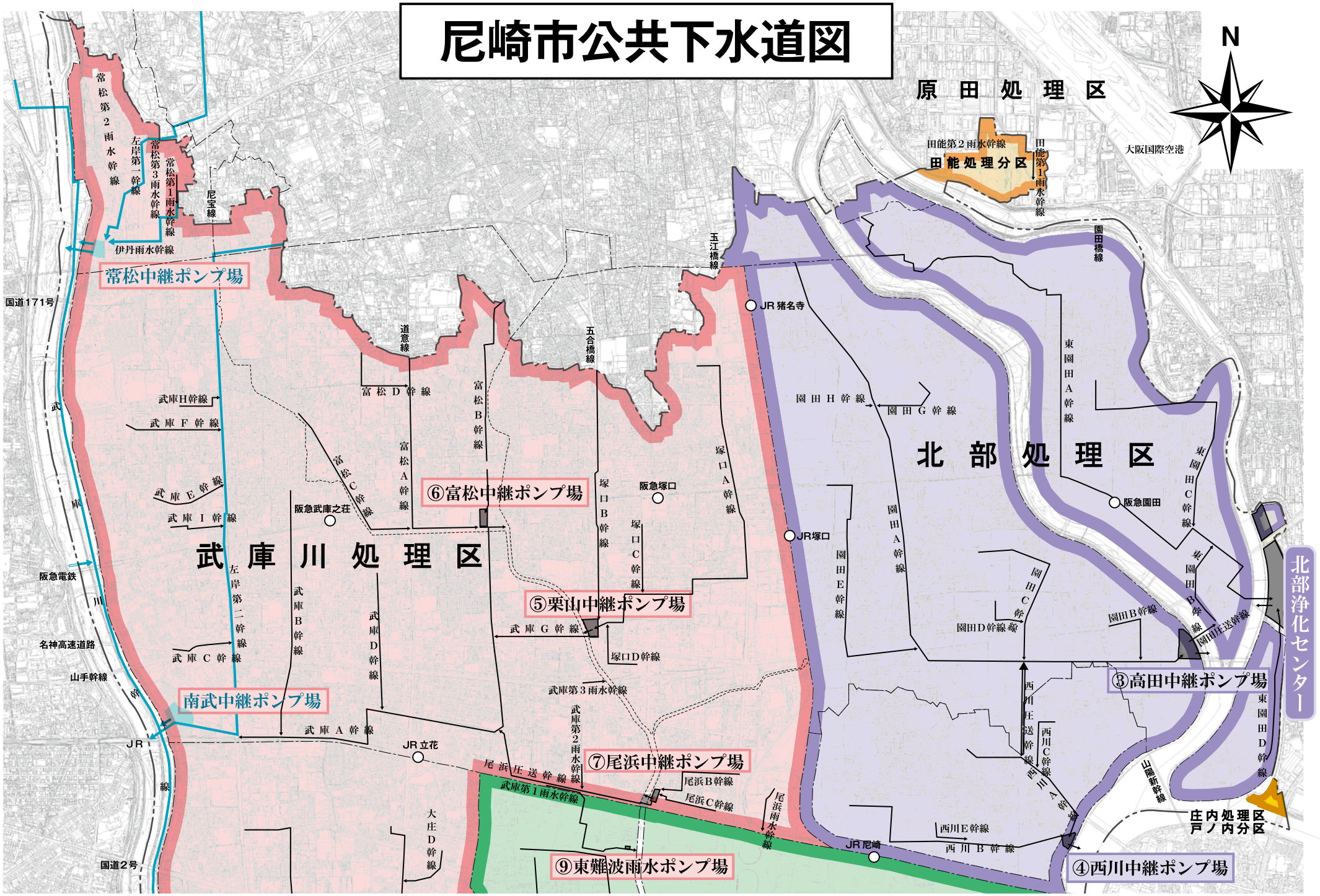
2013
- 東部浄化センター高度処理化着手

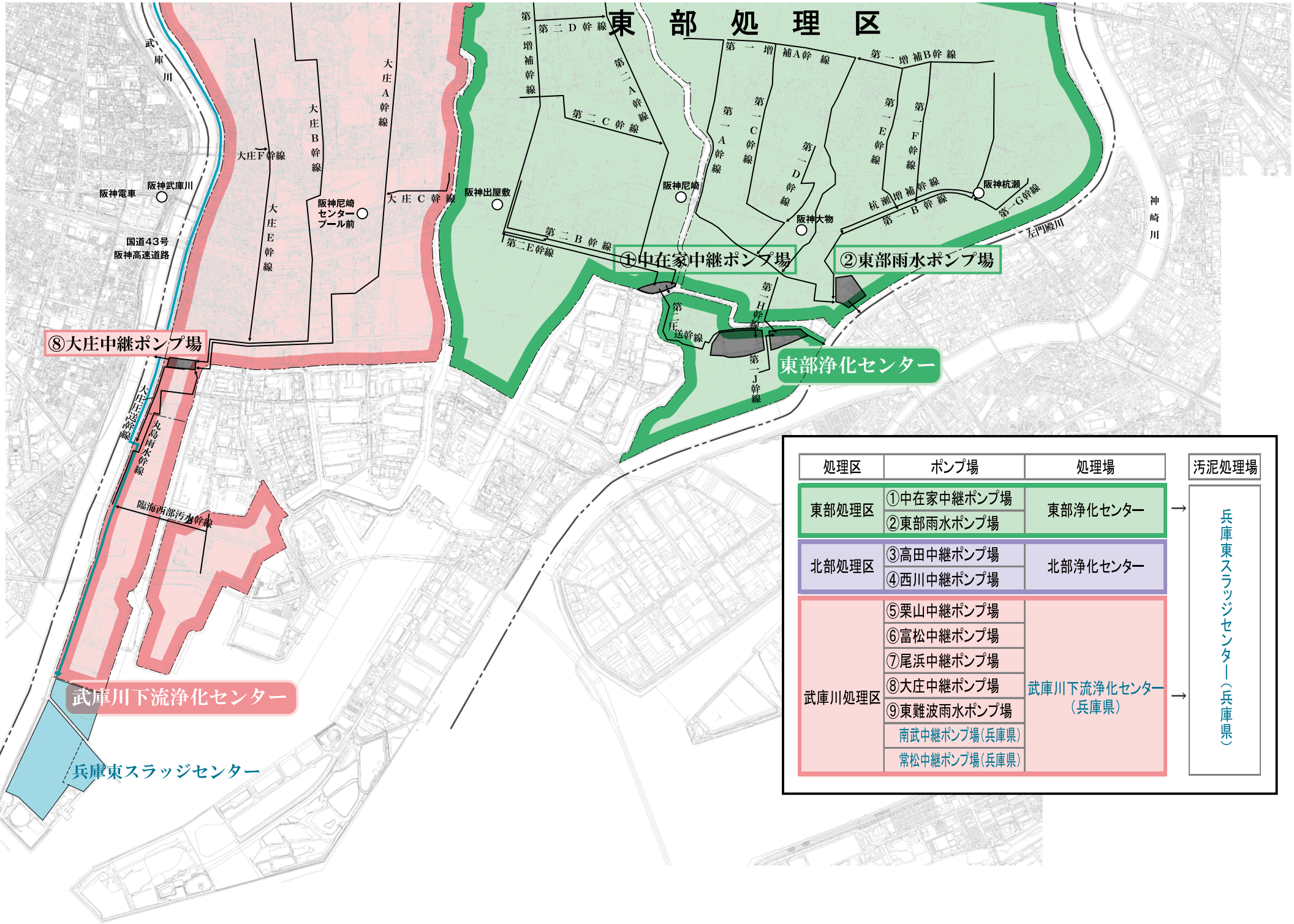
2019
- 北部浄化センター高度処理化着手

全国下水道普及率

※兵庫東：兵庫東下水汚泥広域処理場

尼崎市公共下水道図

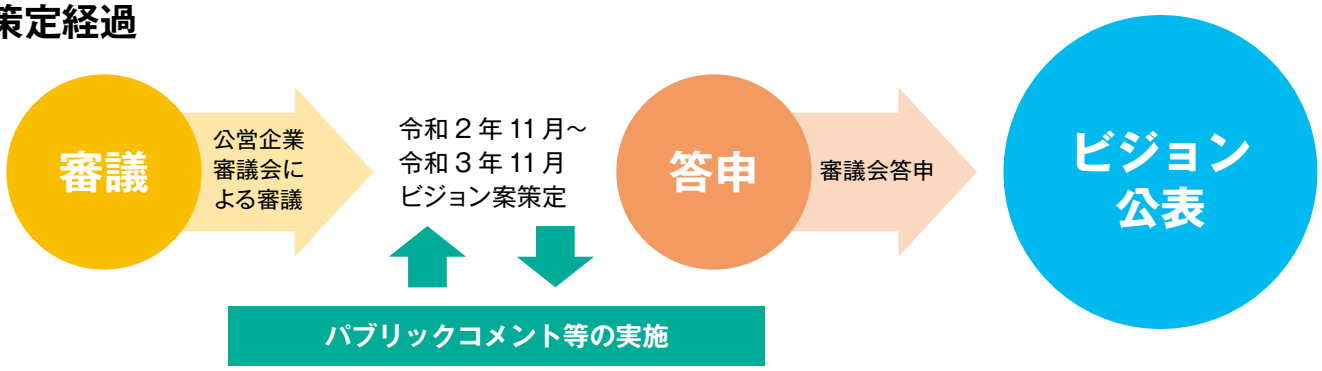

N
原田処理区
田能処理分区
田能第2雨水幹線
田能第1雨水幹線
大阪国際空港
常松第2雨水幹線
左岸第一幹線
常松第3雨水幹線
常松第1雨水幹線
尼宝線
伊丹雨水幹線
常松中継ポンプ場
国道171号
玉江橋線
園田橋線
JR猪名寺
道意線
五合橋線
富松D幹線
富松B幹線
富松C幹線
富松A幹線
武庫H幹線
武庫F幹線
武庫E幹線
武庫I幹線
武庫C幹線
武庫A幹線
武庫B幹線
武庫D幹線
武庫G幹線
武庫第3雨水幹線
武庫第2雨水幹線
武庫第1雨水幹線
左岸第二幹線
⑥富松中継ポンプ場
⑤栗山中継ポンプ場
南武中継ポンプ場
⑦尾浜中継ポンプ場
⑨東難波雨水ポンプ場
阪急武庫之荘
阪急塚口
JR塚口
JR立花
JR尼崎
塚口A幹線
塚口B幹線
塚口C幹線
塚口D幹線
尾浜圧送幹線
尾浜B幹線
尾浜C幹線
尾浜雨水幹線
大庄D幹線
武庫川処理区
北部処理区
園田H幹線
園田G幹線
東園田A幹線
園田E幹線
園田A幹線
東園田C幹線
阪急園田
園田C幹線
園田D幹線
園田B幹線
東園田B幹線
園田圧送幹線
西川圧送幹線
西川C幹線
西川A幹線
西川E幹線
西川B幹線
東園田D幹線
山陽新幹線
③高田中継ポンプ場
④西川中継ポンプ場
北部浄化センター
庄内処理区
戸ノ内分区
阪急電鉄
名神高速道路
山手幹線
JR
国道2号



処理区	ポンプ場	処理場	汚泥処理場
東部処理区	①中在家中継ポンプ場	東部浄化センター	兵庫東スラッジセンター（兵庫県）
	②東部雨水ポンプ場		
北部処理区	③高田中継ポンプ場	北部浄化センター	
	④西川中継ポンプ場		
武庫川処理区	⑤栗山中継ポンプ場	武庫川下流浄化センター（兵庫県）	
	⑥富松中継ポンプ場		
	⑦尾浜中継ポンプ場		
	⑧大庄中継ポンプ場		
	⑨東難波雨水ポンプ場		
	南武中継ポンプ場（兵庫県）		
	常松中継ポンプ場（兵庫県）		

あまがさき下水道ビジョン 2031 策定経過

策定経過



令和２年８月　施策の概要及び政策形成プロセス計画書の公表
令和２年９月　市民意向調査
令和３年９月　市民意見公募手続（パブリックコメント）
令和３年 11 月　市民意見公募結果公表

尼崎市公営企業審議会での審議経過

開催日	会議等	主な審議内容
令和２年 11 月４日	委嘱式及び第１回 審議会	◆委嘱、会長及び会長職務代理者の選任、諮問 等 ◆次期ビジョン策定の趣旨、下水道事業の概要
令和２年 11 月 12 日 令和２年 11 月 18 日	施設見学会	◆北部浄化センター ◆東部雨水ポンプ場
令和２年 11 月 24 日	第２回 審議会	◆現状と課題の整理 ◆課題整理から考えた取組を検討する視点 ◆公営企業審議会部会の設置
令和２年 12 月３日	第１回 部会	◆部会長の選任 ◆施設の老朽化（ストックマネジメント）に係わる審議【処理場・ポンプ場、施設の建替え、管路施設、長期的な更新費予測】
令和３年１月 27 日	第２回 部会	◆災害対策に係わる審議【浸水対策、地震対策、共通の対策】
令和３年３月 29 日	第３回 審議会	◆第１回及び第２回部会での審議内容報告 ◆次期ビジョン策定に係る検討 ◆課題整理から考えた取組を検討する視点とその効果 ◆市民意向調査による意見募集結果
令和３年５月 25 日	第３回 部会	◆環境及び経営や運営体制、広報に係る審議【良好な水環境の形成、環境負荷の低減、安定経営の継続、持続可能な運営体制の構築、市民理解の促進】 ◆施策体系と目標
令和３年７月６日	第４回 審議会	◆（仮称）尼崎市下水道ビジョン 2031 骨子案
令和３年８月６日	第５回 審議会	◆（仮称）尼崎市下水道ビジョン 2031 素案
令和３年 11 月９日	第６回 審議会	◆（仮称）尼崎市下水道ビジョン 2031 案 ◆答申

市民意見公募等

時期	項目	内容	備考
令和２年８月１日～	施策の概要及び政策形成プロセス計画書の公表	（仮称）「尼崎市下水道ビジョン 2031」の策定についての施策の概要及び政策形成プロセス計画書の公表	
令和２年９月１日～９月 30 日	市民意向調査	（仮称）「尼崎市下水道ビジョン 2031」の策定についての市民意向調査	提出：２名 件数：５件
令和３年９月21日～10 月 11 日	市民意見公募手続（パブリックコメント）	（仮称）「尼崎市下水道ビジョン 2031」の策定についての意見公募	提出：０名 件数：０件
令和３年 11 月	市民意見公募結果公表	（仮称）「尼崎市下水道ビジョン 2031」の策定についての意見公募結果の公表	

尼崎市公営企業審議会委員名簿

役職	委員名	所属等	備考
会長	瓦　田　太賀四	園田学園女子大学 経営学部 ビジネス学科 教授	部会長
会長職務代理者	浦　上　拓　也	近畿大学 経営学部 教授	部会員
	足　立　泰　美	甲南大学 経済学部 教授	部会員
	大　野　悦　子	市民公募	
	尾　﨑　　平	関西大学 環境都市工学部 都市システム工学科 教授	部会員
	尾ノ上　直子	尼崎商工会議所　女性部	
	金　子　智　子	市民公募	
	鍬　田　泰　子	神戸大学大学院 工学研究科 准教授	部会員
	佐　野　剛　志	尼崎市議会議員	（令和３年 ６月26日解嘱）
	徐　　博　史	尼崎商工会議所　青年部	
	藤　野　勝　利	尼崎市議会議員	（令和３年 ６月26日解嘱）
	古　田　一　夫	尼崎市社会福祉協議会 理事・武庫支部長	

（令和３年 11 月現在）

用語の解説

あ

IoT
【あいおーてぃー】
Internet of Things の略。情報機器以外のさまざまなものに通信機能を付け加え、インターネットに接続できるようにすること。

ICT
【あいしーてぃー】
Information and Communication Technology の略。コンピューターやインターネットなどの情報通信技術。

尼崎市防災ネット
【あまがさきしぼうさいねっと】
尼崎市の避難情報や地震・台風・河川の洪水などの災害情報を届けるインターネットサービス。

維持管理
【いじかんり】
構造物に要求される安全性、機能性および耐久性を将来に向かって常時保持していくこと。

雨水滞水池
【うすいたいすいち】
合流式下水道では雨天時に施設から河川や海へ放流する際に処理が完全ではない場合があり、放流先の水質を保全するため、汚れの大きい初期雨水の一部を貯留し、降雨終了後に浄化センターで処理することで、放流水の汚れを低減させるための滞水施設。

雨水貯留管
【うすいちょりゅうかん】
下水道管の排水能力を超えうる豪雨に対し、地上への浸水を防ぐために雨水を一時的に貯留しておく管路。

雨水貯留浸透施設
【うすいちょりゅうしんとうしせつ】
アスファルト面が多く地面に雨水が浸透しにくい都市部における保水・湧水機能を維持するために、積極的に雨水を貯留、浸透させる施設。

雨水ポンプ場
【うすいぽんぷじょう】
管路を流れてきた雨水を、河川や海に放流するためのポンプを設備した施設。全体は流入渠、遮水扉、スクリーン、沈砂池、ポンプ井、放流渠などで構成。

SNS
【えすえぬえす】
social networking services の略。インターネット上のコミュニケーションのサービス。

か

カーボンニュートラル
二酸化炭素の放出と吸収が相殺されている状態。

管路
【かんろ】
下水が流れる管。し尿や生活排水を流す管路を汚水管、雨水を流す管路を雨水管、どちらも同時に流す管路を合流管と呼ぶ。

企業債
【きぎょうさい】
下水度施設の建設、改良等に要する資金に充てるため起こす借入金。国や地方公共団体金融機構や、銀行などの金融機関が引受先となっている。

共助
【きょうじょ】
災害が起こった際に地域の方々と活動を行うなど、周りの人たちと助け合うこと。

緊急輸送路
【きんきゅうゆそうろ】
災害の発生直後から、避難・救助をはじめ、物資供給等の応急活動のために、緊急車両の通行を確保すべき重要な路線。

下水汚泥
【げすいおでい】
下水処理から発生する汚泥。
建設汚泥や水域の底泥に比べ有機物を多く含む。

下水処理人口
【げすいしょりじんこう】
　下水を浄化センターで処理できる区域の人口。

下水道施設
【げすいどうしせつ】
　下水を排除するための管路、汚水を処理するための浄化センター、これらを補完するポンプ場等をあわせた施設全体をさす。

減価償却費
【げんかしょうきゃくひ】
　固定資産の経年的な経済的価値の減少額を、事業年度ごとの費用として配分するものであり、現金支出を伴わない費用のこと。

建設改良積立金
【けんせつかいりょうつみたてきん】
　下水道施設の整備や改築のために必要となる費用に充てるために積み立てた資金。

建築構造物
【けんちくこうぞうぶつ】
　ビルや家屋など建築されたものをいい、屋根及び柱もしくは壁を有するもの。下水道施設では浄化センター、ポンプ場の建物部分が該当する。

公共下水道
【こうきょうげすいどう】
　人の生活から発生する下水（し尿、生活排水）の処理や雨水を排除するために、市町村が設置、管理する下水道。

公共用水域
【こうきょうようすいいき】
　河川、湖沼、港湾、沿岸海域など公共的な水域や、そこに接続される水路や用水路。

公助
【こうじょ】
　災害が起こった際に市役所や消防等による救助活動や支援物資の提供など、公的支援のこと。

高度処理
【こうどしょり】
　下水処理において、通常の処理で得られる処理水の水質以上にさらに高度に処理すること。

高度センサー制御システム
【こうどせんさーせいぎょしすてむ】
　温度、圧力、流速等の量や変化を高度に感知し、コンピューターなどで管理、制御することで効率的な施設運転や維持管理をおこなうシステム。

合流式下水道の改善
【ごうりゅうしきげすいどうのかいぜん】
　合流式下水道は汚水と雨水を一緒の下水管で集めており、路面などまちの汚れを含む雨水は、弱い雨の場合は汚水と一緒に浄化センターに送られ処理されるが、浄化センターの処理能力には限界があり、全ての汚水と雨水を浄化センターで処理することは困難である。そのため、強い雨が降ると処理能力を超えた分の汚水の一部を含む雨水が直接河川へ放流されるため、雨水滞水池の整備など、分流式下水道並みの水質になるよう改善対策を行うこと。

さ

災害協定
【さいがいきょうてい】
　地方公共団体と事業所や民間企業との間であらかじめ協定書や覚書を交わし、互いに協力し合って復旧活動を行えるようにするもの。

散気装置
【さんきそうち】
　ばっ気槽（反応タンク）内で効率よく酸素を溶かし込むために用いるために空気を分散させる装置。

COD
【しーおーでぃー】
　Chemical Oxygen Demand の略。水の有機汚濁を示す代表的な指標であり、被酸化物質の量を数値化したもの。
　BOD とともに広く一般に用いられる。

用語の解説

時間計画保全
【じかんけいかくほぜん】
　各設備の機能や構造に応じて、あらかじめ定めた周期で対策を行う管理方法。

事後保全
【じごほぜん】
　構造物の機能停止後にその機能を復旧するために行う管理方法。

自助
【じじょ】
　家庭で日頃から災害に備えたり、災害時には事前に避難したりするなど、自分で命を守ること。

浄化センター
【じょうかせんたー】
　下水を最終的に処理して河川や海に放流するための下水道施設。

状態監視保全
【じょうたいかんしほぜん】
　ポンプ場、浄化センターにおいて、設備の劣化状況や動作状況の確認を行い、ライフサイクルコストの最小化の観点から、最適な改築時期を把握し、適切な対策を行う管理方法。

除塵機
【じょじんき】
　スクリーンに集まった流木や塵芥を取り除くための装置。

スクリーン
　網や多孔板、バー等によって水中の大型の浮遊物質（流木やごみ等）を除去する装置。

ストックマネジメント
　持続可能な事業の実現を目的に、膨大な施設の状況を客観的に把握・評価し、長期的な施設の状態を予測しながら、施設を計画的かつ効率的に管理すること。

全窒素
【ぜんちっそ】
　水中の窒素化合物を定量的に示した値。

全リン
【ぜんりん】
　水中のリン化合物を定量的に示した値。

た

耐水化
【たいすいか】
　ポンプ場や浄化センターの開口部の閉塞及び外構施設の増強等により、津波や河川氾濫時でも水が浸入しない状態にすること。

台帳システム
【だいちょうしすてむ】
　下水道施設の位置、構造、能力等を記録して保管するシステム。

DX
【でぃーえっくす】
　Digital Transformation の略。デジタル技術を浸透させることで人々の生活をより良いものへと変革すること。

テレビカメラ調査
【てれびかめらちょうさ】
　遠隔で運転操作ができる小型テレビカメラにより人が中に入って調査ができない下水管内の腐食等の異常を映像や写真などを撮影し調査すること。

テレワーク
　ネットワークを利用して、職場から離れた場所で勤務すること。

土木構造物
【どぼくこうぞうぶつ】
　鉄道施設や道路施設、エネルギー施設（電力、ガス等）、ダム・河川施設、上下水道施設、空港施設の総称。

な

内水
【ないすい】
　河川からの洪水 (外水) とは異なり、局地的な大雨などにより堤防に囲まれた内陸部で発生する流水。

は

バイオガス

生物反応（微生物発酵や酸素などの利用）によって生成する燃料用ガスの総称。

ハザードマップ

災害による危険をあらかじめ想定し示した地図。一般的には地震、台風、水害、火山噴火等の自然災害に対する被害危険範囲を示す。

PFI

【ぴーえふあい】

Private Finance Initiative の略。公共施設等の建設、維持管理、運営等を民間の資金、経営能力及び技術的能力を活用して行う手法。

BOD

【びーおーでぃー】

Biochemical Oxygen Demand の略。水質汚濁を示す代表的な指標であり、水中の微生物が増殖や呼吸作用によって消費する酸素量を数値化したもの。

BCP

【びーしーぴー】

Business Continuity Plan の略。自然災害など、予期せぬ事態が発生したときでも、業務を継続できるようにするための計画。

PPP

【ぴーぴーぴー】

Public Private Partnership の略。公共サービスの提供において何らかの形で民間が参画する手法を幅広くとらえた概念。PFI や民営化、業務のアウトソーシングなどの手法が含まれる。

標準耐用年数

【ひょうじゅんたいようねんすう】

施設や構造物がその機能や役割を発揮できる年数。

ポンプ場

【ぽんぷじょう】

ポンプにより汚水や雨水を揚水または圧送するための施設。

ま

マンホールトイレ

マンホールの上に簡易な便座を設置し、災害時でも避難者等がトイレを利用できるようにするもの。

メンブレンパネル

浄化センター内の設備のうち散気部分に特殊ポリウレタン膜を使用し、発生する気泡を従来の散気装置に比べ小さくすることができる特殊なパネル。

目標耐用年数

【もくひょうたいようねんすう】

改築の実績等をもとに施設管理者が目標として設定する耐用年数。

や

有収水量

【ゆうしゅうすいりょう】

下水道使用料の対象となる水量。

予防保全

【よぼうほぜん】

施設が異常・劣化する前に予防的に対策を実施する管理方法。

ら

ライフライン

現代の生活を支える日常的に不可欠なシステムの総称。